<お日さまとトナカイ - シベリア・極東のむかしばなし集>
むらやまあつこ·やく なかざわみほ·え 新読書社

読書社が刊行し続ける民話、昔話のシリーズに、私たちの仲間 - 協会員であり"優れた翻訳者でもある村山敦子さんの一冊が加わった。極東はシベリアに住む先住少数民族に綿々と伝わる昔話集だ。ここには優しいタッチと彩りの絵も添えられ楽しい一冊となっている。また各々の話の出所が親切に、地図で示されており、読者の想像の空間を広げ、その力を刺激してくれる。

昔話は記憶され、語り継がれ、子供はそれを何度となく耳にしながら大きくなったにちがいない。大人も、子供時代から馴染んでいるものの、人生の経験を積むにつれ、昔話はもっと別の色彩を帯び新たな装いで立ち現れたことだろう。暖かい空気があふれるユルクの中では、どんな響きのことばが流れたのだろうか。外は吹雪だったかもしれない。その恐ろしく冷たい轟音のなかで、母や祖母、父や祖父が語るその声は、ことさら暖かく胸にしみたことだろう。子供たちは、ことばの響きに寄り添いながら耳を傾け、語り手の顔を見つめていた...そんなことを想像しながら、この本をひもといた。

ヤクートの昔話『めかくしおに』はまさに、スラフに広く伝わらマルシャークが作品化した『森は生きている』(原題:12 月)の原型が見られる。ここにはまた『シンデレラ』(原題:灰娘)の端緒も見られる。気立てがよく働き者の少女が勝者となるお話だ。ここにネズミと猫のコミカルな宿命か絡んでいる。

ツンドラの"まっくら国"の若者が太陽を探し、ついには人々の意志と願い、信じる力に依拠し、黒く悪い兄弟を打ち負かし、太陽を導く壮大な物語『お日さまトナカイ』。一見おとぎ話と思えるが、実はここに多くのメタファーが隠され、普遍的な物語になっていることに驚かされる。その展開は彩色され動く映像のようにじられ新鮮でさえある。単純と思える物語の背後には最も重要な問題、テーマが秘められている。民衆と権力、民衆とリーダー、その信頼関係など。このサーミの昔話に私はとても心を打たれ、感心させられた。民族の英知と精神か強烈に伝わってくる。この本にこの１篇だけが収録されていたとしても、この本の価値は充分すぎるほどだと深く感じ入った。

エスキモーの昔話『海の主』には思いがけず海の主として蟹が登場したりする。ハンティの昔話『妹マチェンカート』にはやって来るものを暖かく迎えるという"森の掟"が上手に盛り込まれている。ニブフの昔話『チョリルとチョリチナイ』には、他の物語同様に人々の暮らしゃ自然か反映され、はらはらさせながら読み進むうちに「苦労して手に入れたものが大事にされる」という教えを得るような仕組みになっている。教えを得ると言っても、説教臭さがないことがすばらしい。コリャークの昔話『大男サハルィラン』に登場する擬人化された主人公、キビシイサムサ、タイヨウ、オオカゼ、カラスなどが、果てしないツンドラを舞台に繰り広げる話は、なんとも愉快で奇想天外た。同様のことが、ドルガンの昔話『川カマスのトナカイ』にも見られる。エヴェンキの昔話『おじいさんと三人の息子』は、類稀なる魔女との知恵比べ。ここですべてを数え上げることができないが、どれもおおらかで自由な発想で着想されており、私は自分の頭と感性の固さを思い知らされ、楽しさに思わず笑いながら、自分の頭をコツコツ、叩いてみた。村山さん、ありがとう!

(児島宏子)

ロシア語通訳協会会報　No.33　13-14 ページよりご了承を頂いて転載。
会報は会員に送付されています。入会ご希望の方は下記にご連絡を。
ロシア語通訳協会
〒 151-0053 東京都渋谷区代々木 1-37-7 勝栄ビル 305 号
Tel. 03-3375-5932 FAX:03-3375-5983 E-mail: apr@world.interq.or.jp